

臨地実習指導者としての自部署の取り組み

3N 病棟 臨地実習指導者 久保 裕子



臨地実習指導者は患者の安全・安楽を第一に、看護学生が意欲的に実習に取り組み、自主性・積極性が出せるような関わりを持つことが求められます。

今回、平成 29 年 9 月から臨地実習指導者研修(240 時間)を受講する機会をいただき H30 年 1 月から臨地実習指導者を拝命いたしました。

参加した研修では、教育論等を学び実習指導者としての役割を理解すると共に、他施設の参

加者とグループワークを通して多くの意見交換が行え、親交を深める機会となりました。

研修中に培ったネットワークは今も活用しており、かけがえない人財を得ることが出来たと感じております。

私が配属された 3N 病棟は外科・心臓血管外科・救急病床を担い、平均在棟日数が 9.2 日(H29 年)の病棟です。ICU・HCUと同じフロアに配置され、「ER」-「ICU」-「HCU」-「救急病床」

「一般病棟」を連携させた急性期医療を主な役割として取り組んでおります。

看護の現場へ踏み出す学生にとって、実習しやすい環境を整えることを心掛けて、学生の不安や緊張など精神面に配慮しながら指導に取り組みたいと思います。積み重ねる実習体験の中で、1 つでも多く「看護する喜び」を感じてもらい、学び成長することの支援を目指し、病棟スタッフ全員で尽力して参ります。

臨地実習指導者としての自部署の取り組み

5N 病棟 臨地実習指導者 中矢 智子



3 校(聖カタリナ学園高校・専攻科、松山城南高校・専攻科、河原医療大学校)の臨地実習を受け入れ、学生との関わりを持つ中でより良い指導環境の提供を目指すため、平成 29 年度「保健師・助産師・看護師実習指導者講習会」に参加させていただきました。講習内容は看護教育における実習の意義・並びに実

習指導者としての役割を理解し、効果的な実習指導ができるように必要な知識・

技術を習得することを目的としたとても充実した内容でした。実習指導に関する科目に加え、教育原理、心理学、倫理、安全管理などを学ぶ良い機会となりました。また、他施設の受講者とのグループワークを通して、これまで行ってきた指導方法を改めて見直す機会となりました。

5N 病棟は主に脳神経外科・泌尿器科・形成外科・皮膚科・麻酔科・歯科口腔外科を担当しております。術後や急性期を ICU や HCU で過ごされた患者の

在宅支援に向け、セラピストをはじめ多職種のスタッフと連携して取り組んでいます。

実習前の雰囲気作り、時間調整、ケアの共同実施、学生達のレディネスを含め、情報を共有し病棟全体で受入れ体制を整えております。

「将来は看護師になる！」という未来の職業選択の基盤作りを、当院の臨地実習経験を通して感じてもらえるように、知識・技術・態度の育成に貢献できるよう努めてまいります。

